

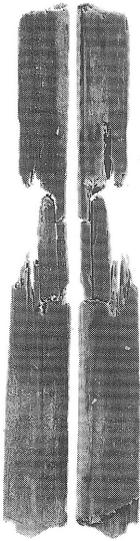
岐阜・<sup>みろくじにし</sup>弥勒寺西遺跡（第二五号）

- 1 所在地 岐阜県関市池尻字東屋敷
- 2 調査期間 二〇〇二年（平14）三月～九月
- 3 発掘機関 関市教育委員会
- 4 調査担当者 田中弘志
- 5 遺跡の種類 祭祀遺跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代（八世紀後半～九世紀）
- 7 木簡の积文・内容

弥勒寺西遺跡より出土した木製品約一三〇〇点のうち、本誌第二五号で報告した五点の木簡を含む二〇〇余点について、真空凍結乾燥法による保存処理を二〇〇三年度に実施した。これに先立ち、奈良文化財研究所の協力を得て木簡の赤外線デジタル写真及び斜光写真の撮影と再積読を行ない、新たな成果を得た。

(1)  万呂

(166) × (19) × 4 081 25 (3)



(1)

(2)

・ 建マ□万 …… 右件人等以今時卯向  
 □□□□ [マカ]

・ 若念者重 ……

□□□□ [万呂カ]

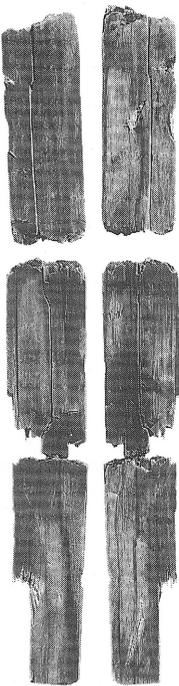
(106+196) × 35 × 4 019 25 (4)

(1)の表五文字目の旁は「反」。「飯」「坂」などが考えられる。  
 (2)の表左上二文字は「日下」の可能性がある。今回の検討の結果、召文であることが判明した。差出部分が欠落しているものの、二尺の長さが見定されることや、細かく折って廃棄されていることなど、いわゆる「郡符木簡」の特徴を備えている。

なお、積読及び郡符木簡について、奈良文化財研究所の渡辺晃宏氏、馬場基氏、山本崇氏、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

8 関係文献

岐阜県文化財保護センター『岐阜県新発見考古速報 二〇〇四』  
 (二〇〇四年) (田中弘志)



(2)